法政大學 社会学部同窓会
同窓会会報
第18号

発行　法政大学
社会学部同窓会事務局
（月・水）
住所　〒194-0298
東京都町田市相原町4342
☎・FAX 042-783-2421

箱根駅伝　二〇〇一年一月
法政大学4位でゴール
シード校に定着か

めざましい活躍を見せている法大箱根駅伝のチームですが、その多くが社会学部の学生です。今年の正月、アンカーとして4位を守りきった早川君に登場してもらいます。

社会学部三年　早川　謙司

今年の正月2日、3日に行われた箱根駅伝では、私たち法政大学駅伝チームは圧倒的不利の下馬評を大きく覆えす4位という45年振りの好成績で東京・大手町のゴールを駆け抜けました。

前回の箱根路は、1区と2区で連続区間賞を獲得し、4区途中までトップを独走していながら、後半失速し目標としていた9位以内のシード権を9位と29秒差の10位でゴールし、10月に行われる予選会からのスタートとなりました。新チームは予選会突破と本戦シード権獲得を目標にしていましたが、最上学年である4年生が就職活動やその他の理由のため、まったく練習に参加せず、夏まで下級生がチームを引っぱるという格好が続き、どうなるのかと不安に襲われました。しかし、夏の合宿で一人ひとりが激しく意見を出し合うミーティングを繰り返し、ようやくチームが一丸となって目標に向かっていくという意識がチーム全体に浸透していきました。

そして10月の予選会は苦しみながらも5位で通過し、本戦は前述した通りの活躍でした。初出場となった私は途切れることのない観衆に戸惑い、力を出し切れませんでしたが、順位を守るという最低限の仕事は果たすことができ、次回に向けていい経験になりました。

法政大学7年ぶりに決勝進出
ラグビー全国大学選手権
昨年度の覇者慶應大学を撃破

ラグビー部長・社会学部教授　石坂　悦男

決勝戦で健闘したが惜しくも準優勝にとどまった

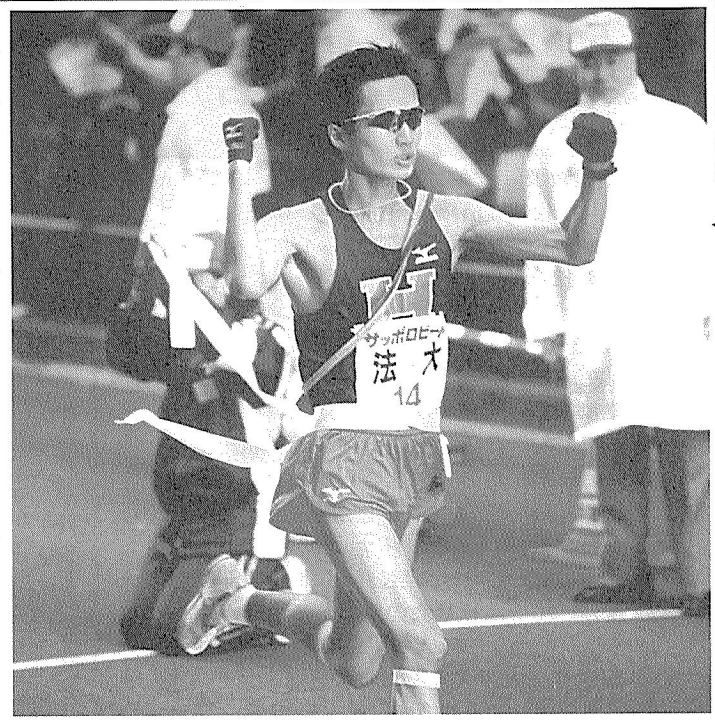
1月2日国立競技場の観衆4万5千のスタンドはどよめきに大きく揺れた。法大の堅いデフェンスが光った。素晴らしいタックルだ。各選手が狙いを定めて、ボールが渡ると同時に頭から突っ込んでいく。強烈なタックルを80分間休むことなく繰り返した。縦を突く慶大を速く、粘り強くつぶした。後半16分WTB斎藤敦が逆転のトライ、33分CTB渡辺哲也が決勝トライを奪って15―13。7年ぶりの決勝進出を果たした。

ほとんど誰もが2連覇を狙う慶大の圧勝を疑わなかった。翌日のマスコミは一斉に「法大が奇跡を起こした」と報じた。だが、これは予想外でも奇跡でもない。文字どうり練習と研鑽の成果、部全員の結集、実力の勝利だ。

決勝進出は小生にとっても感慨一入である。ほぼ1年半前に部長を引き継いだが、そのときにはリーグ戦5位、選手権では慶大に1回戦で7―33と大敗だった。

この一年間、盛岡、甲府（5月）豊田（6月）の招待試合、網走と菅平の夏合宿（7、8月）リーグ戦で三ツ沢、秩父宮、多摩、前橋、選手権で博多、花園、国立と部員と行動をともにした。年末にはOB会の助力を得て80キロの餅つきをして景気をつけた。部員は12月23日の帝京大戦で薄氷を踏んだ後、気を引き締め、年末年始も、雪をものともせず、慶大戦向けて練習と研究に集中した。

1月13日の関東学院大との決勝戦には惜しくも敗れたが、今シーズン部員が得たものは計り知れなく大きいはずだ。一層の躍進をめざしたい。乞うご声援！



大手町のゴールテープを切った早川謙司選手

法政大学「校友連合会」が一歩を踏み出そうとしています
校友連合会設立準備委員　大矢　常吉

卒業生が一丸となって大学を支援しようとする「校友連合会」が今秋にも発足する運びとなりました。

校友会選出の一部の大学役員が不祥事を起こしたのをきっかけに、この再生のため校友会はいろんな改革を積み重ねられ、大学も制度的に対応できることをやってきました。この間古くから活動してきた工学部同窓会・付属校同窓会、そしてまた社会・経済・経営・法・文（準備会で六月発足）各学部の学部同窓会が誕生し活動してきました。

連合の論議は「学部同窓会連絡会」から端を発し、昨年三月校友会長の「基本構想」から本格的になりました。四月には大学の各学部の先生や職員による「大学と校友のあり方」プロジェクトから報告書が出されました。

校友会と各学部同窓会の会長の集まりを「連絡協議会」と名付け、設立の具体化のため「設立準備委員会」が発足しました。この会は各組織から選出された九名の委員によって構成され、私もその一人になりました。

（前半は鈴木和男副会長）

設立準備委員会は、認識の違うところ、意見の合致しないところは「連絡協議会」に調整してもらい、十三回の会合を経て、本年三月、答申書を作成しました。答申書は時間的制約もあり、充分とはいえないところもありましたが、当面はゆるやかな連合で「小さな政府」という点で当を得たものと考えています。

「答申書」は連絡協議会が検討中で、その後各組織に持ちかえり、承認を得られれば、いよいよ発足の会となります。

答申の骨子は、何よりも既存の組織がそれぞれ大いに独自の特徴ある活動ができ、連繋することによって相互に理解を深め、一プラス一が二になり三になるようにしよう、そして大学を大いに支援しようということが基本です。具体的な組織は、校友会・六つの学部同窓会・三つの付属校同窓会が連合します。

運営組織については、各組織の会長が意見を集約する「運営協議会」が当たり、方針を決める。方針の具体化・日常化のためには四十名前後の幹事会を設ける。幹事会には、総務・財務・広報それに大学関係の四つの委員会を置くことになります。

連合会の経費については、各組織の独自の活動を前提としており、総体として大きなものにしていこうという考え方ですから、当面は「小さな政府」ということになります。

さて、以上が経過と答申の概要ですが、連合・一体化に当たって社会学部同窓会の役員会が考慮してきた二つの点について述べてみます。

一つは卒業生の会は大学のパートナーなのか応援団なのかであります。私共は後者であるべきだと考えます。サポート・バット・コントロールでゆくべきだと考えるからです。

二つ目は、既存の組織はいろんな新しい組織・団体を作り加盟して頂くよう連繋して努力すべきだと考えます。例えば、大学教職員、その退職者の団体、在学生の父母の組織、卒業生の年次別集団等、大学を支援しようとするすべての会や組織が入れるようにしていくことです。

ともあれ何よりも卒業していく人達が、法政大学に学んで良かったなあという想いを何かの機会に持てるような大学でありたいと思います。連合会が何をやるか、わが同窓会はどうするか、大きな課題です。

二〇〇一年度総会・懇親会のお知らせ

二〇〇一年度社会学部同窓会定期総会を左記の要領で開催いたします。

日時　二〇〇一年七月十四日（土）午後一時～二時

場所　市ヶ谷ボアソナードタワー二六階ラウンジ

議事
一、二〇〇〇年度事業報告
一、二〇〇〇年度会計報告
・会計監査報告
一、二〇〇一年度事業計画
一、校友連合会への加入について
一、二〇〇一年度予算
一、役員、幹事の補充について
一、その他

懇親会　午後二時～四時
懇親会会費　五、〇〇〇円
参加申込みは事務局まで。

訃報

社会学部同窓会副会長の遠藤伸男さんが、3月19日逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。　役員一同